

中国グリーン燃料の実態 『中国グリーン燃料発展報告（2026）』から読み解く

◇本稿は、中国国家エネルギー局が発表した『中国グリーン燃料発展報告（2026）』に基づき、まず同報告書がグリーン水素を独立品目として扱わない背景を分析したうえで、中国グリーン燃料の「実態」「需給のギャップ」「制約要因」「実施確度の高い施策」「対日示唆」の5つの視点から読み解く。

◇核心的な見解は次の通り。中国はグリーンメタノールやグリーンアンモニアなど新興分野で世界有数の既設生産能力を有する一方、中国全体のグリーン燃料の既設生産能力は約800万トン（石油換算）にとどまる。産業は「規模拡大」の段階から「質的基盤の強化」段階へ移行しつつあり、今後2年間は過大な計画の選別・見直しが進む可能性が高い。この調整期こそ、日本のエネルギー企業にとって今後2～3年の戦略的な検討・参入機会となる。

1. はじめに

2026年8月5日、中国国家エネルギー局は、中国初のグリーン燃料分野を俯瞰する公式報告書『中国グリーン燃料発展報告（2026）』（以下、

目次

1. はじめに
2. 800万トン（石油換算）の実態
3. 需給のギャップ



この記事は、賛助会員・情報提供サービス購読者限定です。
お申し込み後、続きをご覧いただくための閲覧用パスワードをお送りします。

賛助会員・情報提供サービス購読者の方は、
下のボタンから続きをご覧いただけます。

続きを読む

- ◆[情報提供サービスのお申し込みはこちら >](#)
- ◆[賛助会員については、こちらからお問い合わせください >](#)